

《連載》

管工事業協同組合と水道局との連携

(第6回 川崎市)

全管連技術参与 小泉 智和
(元東京都水道局理事)

川崎市では、本年4月、上・下水道が一緒になり、工業用水道を含めた新たな「川崎市上下水道局」が発足しました。

今回は、(財)給水工事技術振興財団教務部長の大久保正矩さんと川崎市を訪問しましたので、川崎市管工事業協同組合が市上下水道当局と一体となって頑張っているところをご紹介しますと思います。

さて、本題に入る前に、毎度のことながら、少し川崎市をご紹介しますおきましょう。

川崎は、古くから台地に人々が生活し、日本書紀にも安閑天皇元年(534)に4つの屯倉(大和政権の直轄地)が置かれていたとの記録が残っています。平安時代には、川崎の地名の由来、河崎荘(ほぼ現在の川崎区)が河崎冠者基家によって開発されました。

江戸時代になると東海道が整備され川崎宿が設置され、川崎は大きく発展します。

明治5年には、新橋～横浜間の鉄道開通により川崎駅が誕生。昭和になると、軍需と結びついた金属・機械器具・化学工業などの工場が次々と進出、そして戦争では大打撃を受けましたが、戦後、京浜工業地帯の中心的都市として驚異的な復興を遂げます。

今日では、先端産業都市として発展するとともに、東京と横浜に挟まれた都市のため、どちらかと言えばベッドタウンとして、また商業都市としても発展しています。

人口は140万人、「活力と
うるおいのある市民都市・
川崎」の創造を目指しています。

参考までに、初詣(2010年)では、明治神宮(319万人)、成田山新勝寺(298万人)、そして川崎大師が全国第3位(296万人)となっています。



川崎駅前通り

○川崎市の上下水道

水道事業については、大正10年に多摩川の表流水を水源として給水を開始しました。

その後、市域の拡大、人口の急増、産業活動の進展などにより水需要が増大し、今日1日98万9,900 m^3 の給水能力を保有しています。

しかしながら、近年、産業構造の変化や回収水の再利用、節水意識の浸透などにより、水需要は横ばいの状況になっています。

こうした動向を背景に、一方では施設の大規模更新を目前にして、平成18年に「川崎市水道事業の再構築計画」を策定し、給水能力を1日75万8,200 m^3 へと縮小することに伴う浄水場の統廃合を図るとともに、水道システム全体として緊急時にも対応できる施設の再構築を進めています。

また、政令市一の規模を持つ工業用水道は、昭和12年に我が国最初の公営工業用水事業として給水開始しました。しかし、工業用水も水道事業同様、「川崎市工業用水道事業の再構築計画」を策定し、給水能力を56万 m^3 から52万 m^3 へと削減し、施設

を更新することを進めています。

一方、下水道は、昭和6年にJR川崎駅を中心とした旧市街地の浸水対策として建設に着手し、県下初の下水処理場として昭和36年9月に入江崎水処理センターを稼働させました。その後、昭和38年以降、八次にわたる下水道整備五カ年計画に基づき事業を推進し、平成21年度末で処理人口普及率は99.3パーセントに達しています。

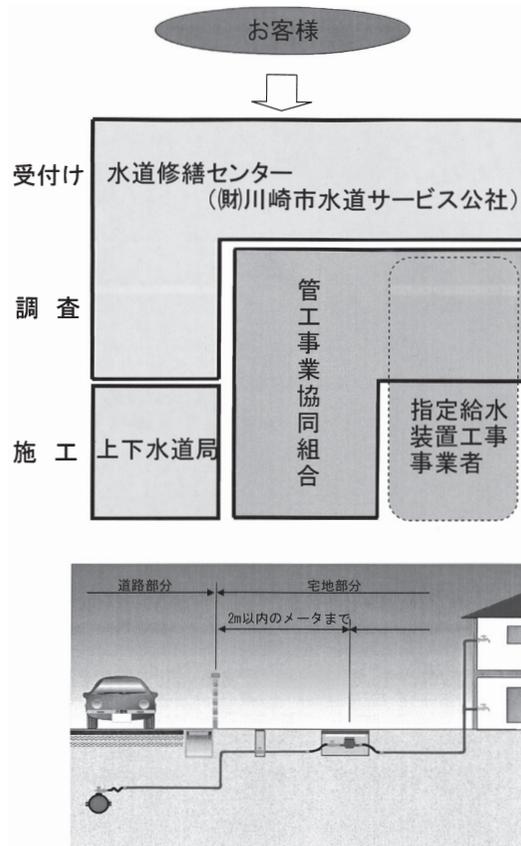
現在、川崎市下水道事業中期経営計画（平成20～22年度）において、「下水道施設の効率的・効果的な維持管理と更新」及び「コンパクトで確かな経営に向けた取り組み」を進めているところです。

このように平成22年4月に三つの事業を統合した上下水道局は、市民生活や企業活動を支える安全で安定した水の供給・循環やゲリラ豪雨による浸水対策を責務として、水道料金・下水道料金の徴収、窓口サービスの一元化などによるお客様サービスの向上を図るほか、施設更新、管路の耐震対策などのハード面も含め効率的・効果的な事業運営に取り組んでいます。



長沢浄水場

川崎市における閉庁時間帯の修繕体制



○川崎市の上下水道修繕にかかる体制

●(財)川崎市水道サービス公社：水道修繕センター

公社は、平成元年に設立、水道事業という公共性の高い分野で、「専門的な技術力・知識・経験」を有する職員が「給水施設管理業務」、「広報公聴及び教育訓練業務」、「水道修繕案内及び現地調査業務」、「災害関係業務」等に従事しています。

平成13年に、水道修繕センターを開設して、水道修繕の申し込みを年中無休で24時間受け付けています。

川崎市では、配水管から宅地内2m以内は、無料で修繕を行っています。(アパートなどのように複数の水道メータがあるときは、宅地内1m以内の第1止水栓までと

しています。)

●閉庁時間帯の修繕体制

お客様からの電話は、水道修繕センター(水道サービス公社)が受け付けます。

- 道路部分は、水道修繕センターが調査し、上下水道局(3ヶ所の配水工事事務所)が施工します。*道路掘削、復旧は請負業者が施工します。
- 宅地内(官民境界から2m以内のメータまで)は、川崎市上下水道局との委託契約に基づき、管工事業協同組合が調査し、施工します(当番制)。
- 宅地内(局施工範囲外)は、近くの指定給水装置工事事業者2、3社を紹介します。

*市民からの「どこへ電話しても来てくれない」等の要望に対応するため、修繕業務が対応できる業者の調査を行い、一覧表にまとめ活用しています。

●開庁時間帯の修繕体制

- ・道路部分は、上下水道局の3つの配水工事事務所が調査、施工を行っています。
- ・宅地部分は、閉庁時間帯と同じ修繕体制で行っています。

*なお、川崎市管工事業協同組合では、上下水道局からの委託業務とは別に、平日昼間（8:30～17:00）のみ修繕受付を行っています。

○川崎市管工事業協同組合

組合は、昭和29年8月に発足、創立から56年を経過しています。

組合の活動内容としては、

- ①水道工事事用資材共同購買事業
- ②水道工事事用機械、工具等の共同利用
- ③路面本復旧工事の共同受注
- ④メータ関連業務、給水装置調査等業務の

共同受注

- ⑤フリーダイヤルによる修繕工事受付
- その他、組合員に対する福利厚生事業や技術・技能の向上に関する講習会などを実施しています。なお、上記①～⑤の事業は、管工事会館とは別の宮内出張所(川崎市中原区宮内)で行っています。

- ・組合事務所 川崎市川崎区宮本町5番地5
- ・組合員数 139社 賛助会員 4社
- ・理事長 大坂 延男
- ・組合設立 昭和29年 8月

●路面復旧業務

- ・川崎市管工事組合では、川崎市内の給水工事（主に配水管からの給水管取り出し工事）に伴う道路掘削跡の路面復旧工事（本復旧工事）を、30年以上も前から、組合員・非組合員を問わず有料にて受け付けています。
- ・当組合で行った路面復旧工事に関しては、「本復旧完了届の作成・提出」から、



川崎市管工事会館

◎復旧請負別・書類提出先

復旧請負区分		提出先	
		組合員	非組合員
1	管工事組合復旧による、本復旧依頼	管工事組合	管工事組合
2	競合他企業復旧による、復旧報告	管工事組合	上下水道局
3	砂路盤の平板または、砂利道の自費復旧	管工事組合	上下水道局
4	上記以外の自費工事による本復旧	上下水道局	上下水道局
5	自費復旧に他企業復旧を含む場合	上下水道局	上下水道局

「保障期間満了写真の撮影・提出」まで行います。

・復旧請負別・書類提出先（表：上記）

●パソコンでの会議

平成14年から、組合では、パソコンでの会議を導入しています。

初めは組合理事さんたちに戸惑いもあったようですが、今日ではすっかり定着、資料などはパソコンを見ながらの会議となっています。必要に応じて、会議資料は自宅（会社）へ転送したり、メモリー等で持ち帰ったりします。



パソコンでの会議

●組合キャラクター決定

組合では、組合のイメージアップを図り、併せて修繕工事のPRをしようということで、広く作品募集をし、この度下記の



組合キャラクター

キャラクターが決定しました。

これからは、キャラクターシールを組合員（会社）の車に張ることや各種PRに使用することとしています。本来なら、組合名や電話を記入したマグネットシールを作成したいところですが、費用などの面から、当面はシールとし、将来はマグネットなども取り入れたいとしています。

○最近の動きから：水道管3万8000kmが耐用年数超え

本年5月の毎日新聞は、「全国の上水道管の老朽化が進み、総延長約61万キロのうち、ほぼ地球1周分に当たる約3万8000キロが法定耐用年数（40年）を既に過ぎていることが、水道事業者でつくる日本水道協会の調査で分かった。」とし、「低成長や人口の頭打ちなどによる水需要の低

迷で、地方自治体の水道事業経営は厳しさを増しており、更新は年間で総延長の約1%しか進んでいない。このため各地で漏水事故が相次いでいる。」と、大きく報道しています。

考えるに、この問題は何よりも各水道事業体の問題でもあり、経営環境が厳しいからといって、安易に許される問題ではありません。

水道管や浄水場といった施設の更新には多大の経費が係ります。しかし、事故が起きてから、地震が来てからでは、遅すぎるのです。将来を見据え、かかる経費はしっ

かりと計上し、そのためには、水道料金も適正に判断されなければなりません。

特に、人体に影響を及ぼす恐れのある鉛製給水管が、まだ全国で515万軒もあるといえます。また、石綿管も更新が済んでいないところもあるやと、聞き及びます。

管工事組合に置かれては、是非、自らの問題として、時には地元の水道事業体と意見交換をして、布設配管状況(布設替促進)などに物申すことも必要でしょう。このことにこそ、組合の存在価値があるようにも思うのですが……。